

# iとらむ

「iとらむ」…「とらむ」は新型路面電車のこと。「i」はikebukuroに人と環境に優しい「愛=i」のあるまちづくりを願う、この会の理念を表しています。

## 2019年11月 豊島区 まちを回遊する電気バス 運行開始!



Illustration by Eiji Mitooka + Don Design Associates



### Contents ▶▶▶▶▶ 目次

近未来ダイアリー、世界トラム点描	2,3
宿本尚吾 副区長(当時)講演記録	4,5
宮田会長追悼、新会長就任挨拶	6
VOICE、豊島ストリート 今昔ものがたり	7
INFORMATION	8



# 近未来ダイアリー

## 電気バスが運行開始!

### LRTとの関係は?!

#### 池袋駅周辺の開発と電気バス

池袋駅の周辺では、国と都の支援を受けつつ豊島区の積極的な取り組みにより、多数の開発事業が着々と進んでいます。そして豊島区は、環境都市を象徴する移動システムとして、4つの公園や各箇所を回遊する電気バスを2019年11月に運行開始する予定です。

#### LRTへの発展を願う

ここで、豊島区が運行する電気バスと当会が実現を目指すLRTとの関係の整理が必要です。

電気バスは、最高速度は19キロと低く、座席数は15と少ないので、人々の日常的な移動ニーズに比べると、人々の日常でも、東アジア文化都市2019豊島、東京オリンピック・パラリンピックなどのイベントに最適で、非日常的なインパクトを持った乗り物と言えます。

- 一方、LRTは、
- ・軌道走行で速達性・定時性がある
- ・乗車定員が多い
- ・利用のわかりやすさがある
- ・デザイン性に優れている
- ・シンボル性がある

等、日常の移動ニーズを満たすとともに公共の乗り物としての安定性も持っています。

ビッグイベントが続く今後2年間は、豊島区をより発展させるチャンスとなります。水戸岡デザインの電気バスはおいに話題となり豊島区を盛り上げてくれることでしょう。

そして、その後にはやはり本格的な公共交通としてのLRTが求められることになることでしょう。

当会は、環5の1（明治通りバス）が2020年春に開通（予定）した後は、池袋駅東口周辺を歩行者主体の空間に転換できることを視野に入れ、引き続きLRTの実現を目指していきます。

（池袋の路面電車とまちづくりの会 事務局）



### 世界トラム点描

ウィーンの街角に出かけると、なぜかほっとする。カフェにいても、散歩していても。

これは、トラムがいつも寄り添っているからかもしれない。レールという目印があるから、自分の居場所がはっきりわかる。時々心地よい鐘を鳴らすが、バスと違って、騒音もなければ、排気ガスもない。そんなトラムが、いつでもどこにでも、気が向いたら乗ってください、といわん



※「Hareza 池袋 GUIDEBOOK」(豊島区)への掲載図にLRT池袋回遊線構想を追記

うつのみや きよひと  
**宇都宮 浄人**  
 関西大学経済学部教授  
 近著に  
 「フランスの地方都市には  
 なぜシャッター通りがないのか」  
 学芸出版社(共著)がある。  
 (宇都宮氏は2017年、ウィーン工科大学  
 に客員教授として、1年間赴任されました)



ばかりに付き添っている。待たずに乗れるトラムは早朝から深夜まで走っている。もっと、カフェでコーヒーを飲みたければ、そこにいけばいい。歩道からすぐのフリーだから、お年寄りもベビーカーのお母さんもいつでも利用できる。トラムが、9年連続の「クオリティ・オブ・リビング(生活水準)」世界一を支えていることは間違いない。

# 「豊島区の将来像とその魅力」 東アジア文化都市2019のレガシー

豊島区副区長(当時) **宿本尚吾氏**

平成29年11月7日 午後6時30分  
於：豊島区生活産業プラザ多目的ホール

大学では安藤忠雄氏に憧れ、建築を専攻しました。卒業後は建設省、現在の国土交通省に入省し、主に住宅・都市行政部門を歩きました。文部科学省の外郭団体に向向して新国立競技場の建築計画を担当した後、平成28年に副区長として豊島区に赴任しました。

さて、本講演では、「**東アジア文化都市「レガシー」**」「**池袋の4つの公園とその開発動向**」、そして「**電気バス**」についてお話しします。

最初に、2019年に豊島区が選ばれた「**東アジア文化都市**」についてお話しします。

この日中韓の文化都市交流は2014年からスタートし、もともとは1980年に始まった「欧州文化首都」をモデルにしています。欧州と一口に言っても、思想・信条・宗教・政治・

経済圏がそれぞれ違うわけです。でも、文化なら仲良くしていけるだろうと、これを共通項として毎年2都市の「文化首都」を決め、各国持ち回りで、文化・芸術のつながりの中で各国の関係強化を図っています。

これに当時の近藤誠一文化庁長官が注目し、日本・中国・韓国も文化面では仲良くしていけるだろうということからスタートしました。

日本では、これまで横浜・新潟・奈良・京都・金沢が東アジア文化都市となり、来年は豊島区がなります。豊島区は人口30万人程度ですが、「21世紀の日中韓の付き合いや文化融合を考えると、今後はこの規模の都市と都道府県が連携すれば、きちんと東アジア文化都市を開催できることを示した方がいいのではないか。」と主張しました。

日中韓の都市の規模はそれぞれ異なり、大きな都市だけで開催していたら長続きしません。ですから、人口規模やアクセス環境の異なる中国・韓国の選ばれた都市とお付き合いしていくことを豊島区が実現できたことには、とても意味があります。区民の皆さんが中国・韓国の方々と交流し、豊島区が汗をかき、国の皆様とともに成功に導くことの意味は大きく、また、こうした動きとその後世の中・まちをどうしていきたいかという議論も大事です。

次に、「**レガシー**」についてお話しします。

2000年のオリンピックピック(以下「五輪」)憲章において、「開催都市は開催国を含めて遺産を、レガシーを残していこう。」となりました。この考えに基づいて比較的成功したと言われているのがロンドン五輪です。スポーツ面では選手の強化、まちづくり面では東ロンドンの再生です。それまで産廃の集積場や移民が多く劣悪な環境だったこのまちを再生させることが、五輪誘致を決定付けました。





陸上競技場を作り、五輪後もラグビーワールドカップ・サッカー・世界陸上と活用し、現在はプロサッカーチームのスタジアムとしています。また、ロンドンの物流が加速度的に良くなったという効果もありました。このように、その時にしたことが日常に、まちづくりにつくと残っていく、そういうことを見つけていくべき、いきたいものです。

1964年の東京五輪でも、新幹線・首都高速・武道館といったモノ作りのみならず、「まちをきれいにしよう」という動きが起き、また意外な側面として、日本人が時間厳守するようになったという効果もありました。その

ほかにもカラーテレビの普及、冷凍食品の開発、避難マークなどのピクトグラムの創作、民間警備会社の登場もありました。

次に、「**池袋の4つの公園とその開発動向**」についてお話しします。

池袋はバブル期以降に建築された業務床の比率が渋谷・新宿と比べて非常に少ない一方、古い建物が多く、それだけ開発余地があります。現在、再開発が2箇所進んでおり、準備組合も3地区あります。渋谷・新宿の再開発にも引けを取らず、区の新庁舎建設・旧庁舎跡地開発・南池袋公園・造幣局跡地開発は区が主導しているのが特徴的です。区庁舎

の移転が新たな開発機運につながりました。

さらに、再開発のカギとなるのは公園であり、区長の「4つの公園でまちを変えていこう」という発案に基づき、まちづくりが進められています。区が中心となって、まちづくりを進めていることが渋谷・新宿と全く違うところでは。まち（エリア）をつなぐ手段としてのLRT構想をバスで具現化し、開発が開発を生んで、それをバスが拡げていく「相乗効果」を考えています。最後に、「**電気バス**」についてお話しします。

豊島区は、池袋の回遊性を高めるため、低速電気バスの導入を考えています。対象は来街者の方々に、輸送力は1台あたり15人くらいです。スピードは最高19キロなので、浅草の人力車やヨーロッパの公園内馬車の感じですが。今までのこの都市にもない、新しい「装置」をこの池袋に組み込めないかと考えています。

JR九州の「ななつ星」をデザインした水戸岡鋭治さんに設計だけでなく、トータルにデザインをしていただきます。

まとめとして、池袋の東西に、文化拠点と4つの公園整備による文化都市豊島区にふさわしいものができたのがひとつのレガシーです。まちの回遊性をバスやシェアサイクルにより向上させ、将来的には、LRTへと展開したいものです。

せ、将来的には、LRTへと展開したいものです。

そして、「環境浄化キャンペーン」も本場のレガシーに近いのではないかと考えます。池袋が「きれいで安全なまち」ということを売り込むことが、ナイトタイムエコノミーには絶対必要です。また、五輪後のまちづくりの議論にもつながるものと考えます。

今、池袋の風向きが変わっています。お台場・六本木でのイベントが池袋に来ており、これをまちづくりにどう活かすかも考えていくべき課題です。

(文責：事務局)

(宿本氏は平成30年7月に国土交通省 住宅局 住宅生産課 建築環境企画室長にご栄転されました。)

〈事務局の感想〉

お話の中で、中央官庁のキャリアの仕事に触れる部分がありました。我々がマスコミで知る、聞いているこちらが胃の痛くなるような、当事者にとっては激務と緊張シーンの連続が語られ、ドラマ以上のドラマが日々起こっているエキサイティングな仕事だとうかがい知ることができました。

全体として、宿本氏の豊かな経験と実例に満ちた面白くてためになるお話により、豊島区の魅力を再認識し、豊かな将来性を改めて感じた有意義な講演でした。ありがとうございました。

## 宮田和昌さんの

## まちづくりの夢

池袋の路面電車とまちづくりの会

当会の前会長・宮田和昌様が平成30年6月20日にご逝去されました。宮田様は平成15年11月の設立当初より当会会長を務められ、一貫して新型路面電車の早期実現を願っておられました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

葬儀の時に、喪主を務められたご長男で、宮田商事株式会社社長である宮田知典氏が、「家の中でも外と全く同じく、温かな笑顔でやさしく家族に接してくれる本当に仏様のような父でした」と述べておられました。

その言葉を聴き、確かにそうだったとうなずくものがありました。街中でお見かけするときにはいつも穏やかな笑顔で挨拶の言葉をかけていただいた思い出があります。宮田会長の穏やかで円満な人格と公正公平で先を見通した深い洞察力・判断力に、私たちは励まされ、救われながら今日まで活動を続けてこれたような気がします。

池袋駅東口から延びるグリーン大通りに面して建つ宮田商事のビルの上階からは、人通りの絶えない池袋東口五

差路を真下に見ることができず。

宮田会長はこの光景をいつもご覧になって、車の通行よりも圧倒的に人波の多いこの通りの車道部分がレールに置き換わり、新型路面電車がゆっくりと走る隣で人々が自由に街を楽しむトランジットモールになることを夢見ていたと思います。

国際アート・カルチャー都市としては、来年に東アジア文化都市のホストシティとなることが決定し、再来年には東京オリンピック・パラリンピックを迎え、その真価を問われることとなります。

文化は人類の自由な土壌に咲く華です。歴史的に「自由なる都市」として生まれた街・池袋に、西洋の広場を思わせるトランジットモールが出現し、カッコいいLRTが平和な自由の街を象徴するように走る。宮田会長の夢はそのまま我々の会の夢です。この新型路面電車とトランジットモールの実現に向けての決意を今また新たに、追悼の言葉に代えます。宮田会長、本当にありがとうございます。合掌。



英国にお孫さんの留学先を訪ねて



宮田和昌氏と  
ご長男・宮田知典氏ご家族

## トランジットモールとLRTの力

新会長就任挨拶 溝口禎三



当会の設立は2020年春に完成予定の環5の1道路計画と密接にかかわっています。池袋東口駅前を通る明治通りのバイパスが実現すると、池袋東口駅前の景色は一変します。私たちは、池袋東口駅前に車の乗り入れを制限して、駅前とグリーン大通りを人々に開放する広場・トランジットモールとすることを夢想しました。そして、

移動のためには、当時欧米の都市の旧中心市街地の再活性化に目覚ましい力を発揮していた公共交通としての新型路面電車・LRTが走る未来を描いたのです。この我々の夢は2025年の「池袋東口LRT回遊線」計画として、豊島区の未来交通計画に盛り込まれることになりました。

ところで、高野之夫区長の豊島区政は、区の行財政改革を見事に成し遂げ、さらに文化によるまちづくりを猛スピードで推進成功させてきました。明治通りのバイパス完成前に「東アジア文化都市」を誘致し、現在はそのホストシティとして、池袋駅の東西を劇場都市として整備し、その象徴となる四つの公園をめぐる電気バスを実現させるなど、国際アート・カルチャー都市構想による画期的なまちづくりに邁進

しています。四つの公園は広場的な雰囲気があり、デザイン性に優れた電気バスはLRTを想起させます。

とすると、これをもって私たちの会の役割は終わったのでしょうか。いや、そうは思えません。私たちの会はまちづくりの理想のためにトランジットモールとLRTを提案しました。まちの役割は重要で、私は、まちは人々の公共意識を育てる良き教師であると考えています。それはコンピュータ、IT社会となった現在、より重要となっております。まちで人々が出会い交わる中で、人が自由に羽ばたくこと、そして、人と交わりながら平等の意識を自然に感得すること、そのことで社会がより豊かに、平和に、楽しくなります。

トランジットモールとLRTの実力は欧米等の成功例で見えるように圧倒的なものです。過去の東アジア文化都市の5都市が歴史を超えて文化都市として人々から認知されてきたように、池袋のトランジットモールとLRTが、人々にまちに必要な価値として認知されるとき、豊島区は本当の文化都市としての道を歩み始めるものと私は信じています。

## Voice ▶▶▶▶▶

豊島区国際アート・カルチャー都市チーフプロデューサー  
 (株)キョードーファクトリー 代表取締役社長

## 前田 三郎(まえだ さぶろう)さん

路面電車の穏やかでゆっくりとしたあのスピードが好きです。ストラスプール(仏)やウイーン(奥)をはじめ海外の文化都市の多くがトラムを都市交通の主軸としています。文化の匂いを持つスポットに路面電車は親和性があるのです。日本でも、熊本・広島・富山・堺などお城のある歴史と文化を誇る街に路面電車が活躍していますね。



車窓から外を眺めれば、それは人間の歩くペース、生活するペースに沿った街の情景を楽しむことができます。街への視線はあのスピードを大切に想ってほしい。それはコミュニティを大切にする街であることの証明なのです。

来年は回遊電気バスが豊島区を走ります。かつては池袋駅前からも路面電車が動いていたことを思い出してみてください、人が人らしく生きる文化都市の幕開けです。

都電テーブル雑司が谷 店主

## 梶谷 智樹(かじや ともき)さん

僕は雑司が谷で、少しお酒も飲めるラーメン店を任されています。えっ?昔は東京中あちこちに路面電車が走っていたんですか、それは知りませんでした!僕は関西の出身なので、まだ東京の歴史にはそんなに詳しくないんですよ(苦笑)。ただ、豊橋の隣の岡崎に長く住んでいて、豊橋には市電が走っていますから、路面電車自体に馴染みがあります。今は都電のそばにいますし、縁があるのかなあ(笑)。



路面電車の良いところは、車窓からまちの様子がよく見えること、街角から気軽に乗り降りできることだと思います。ウチの店のコンセプトも、「まちに溶け込み、お客さんにはまちを楽しみながらご利用いただく店」といったあたりで、都電のお客さんにはピッタリなんですよ。そんな路面電車が池袋にも通ったら、それは素晴らしいことですよ!(談)

豊島ストーリー  
今昔ものがたり

株式会社 藤久不動産代表取締役

後藤 文男

豊島区に於て存在した都電は池袋駅前から数寄屋橋までの17系統、大塚駅前から錦糸町駅前までの16系統、巢鴨駅前から志村坂上・神田橋間の18系統および西新橋一丁目までの35系統、駒込駅前から王子駅前・通三丁目の19系統があった。都電32系統(荒川線)は都心へ向かう16・17・18・19系統を横につないでいた。

池袋に都電が来たのは1939年(昭和14年)だった。池袋駅前の都電乗り場は、現在のグリーン大通りのタカセ前にあった。32系統は東池袋四丁目まで17系統と交差していたが、線路はつながっていなかった。それは32系統がもともとは王子電気軌道という私鉄だったからである。同様に大塚駅前と新庚申塚でも線路はつながっていなかった。池袋の路面電車構想も池袋駅前からサンシャインまでのわずか1kmあまりの短い路線ではなく、都電荒川線との連携を考えたものにしていくべきと考える。17系統の一部復活として池袋駅前から護国寺、そこから新目白通りを早稲田まで伸ばして荒川線と繋げたらどうか。車体は荒川線に揃え高床式で、乗り場はプラットホームを作ったらい。このような高床式の路面電車はイギリス・マンチェスターにある。



1969年(32系統)



2018年



1969年



2018年

「東池袋四丁目」今昔

「池袋駅前」今昔

# INFORMATION

## 活動報告

平成29年5月～

9月28日

- 会報「iとらむ」第12号発行

10月27日

- 池袋電動コミュニティビークル「eCOM-10」試乗会参加(高野之夫豊島区長ご参加)

11月7日

- 第15回総会(生活産業プラザ)  
講演会【本誌4～5P】  
「豊島区の将来像とその魅力」  
豊島区副区長(当時) 宿本尚吾氏

平成29年



eCOM-10 試乗会



宿本尚吾氏 講演会

1月14～15日

- 第13回全国路面電車サミット2018松山参加(溝口事務局長が参加)

7月27日

- 池袋電動コミュニティビークル「eCOM-10」試乗会参加(小池百合子東京都知事・高野之夫豊島区長ご参加)

平成30年



路面電車サミット2018松山

## 入会のご案内

### 入会方法・年会費

#### 会員募集

1. 個人会員(個人的にご入会の場合) 年会費3,000円
2. 法人・団体会員(会社・学校・病院・町会・商店会・任意団体などでご入会の場合) 年会費10,000円  
また別途、賛助会員もお受けしております。年会費 一口10,000円(一口以上からお受けしております。)

#### お問い合わせ

公益財団法人としま未来文化財団みらい文化課まちの魅力づくりセクション  
〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-34-5 藤和第2ビル2階 担当:高橋 TEL:03-3590-7581  
「池袋の路面電車とまちづくりの会」事務局 TEL:03-3983-2483  
e-mail:ikebukuro.lrt@gmail.com ホームページもご覧下さい <https://i-tram.tokyo/>

## 編集後記

「トランプ」といえば、件の人物ではなく、13×4種類+1枚の計53枚のカード。あらためて英和辞典をひくと、「切り札」との訳▼ならば、豊島区や池袋の魅力をとランプのカードになぞらえてみよう。順不同・将来分も含めて▼文化面では、国際アートカルチャー都市・東京芸術劇場・ハレザ池袋・立教や学習院等の大学・トキワ荘・ポップカルチャー等▼施設面では、豊島区新庁舎・サンシャインシティ・学習院内7つもの国の重要文化財・「4つの公園」等▼イベント面では、ふくろ祭り・バラまつり・多くの音楽祭・よさこい・阿波踊り等▼歴史面では、池袋モンパルナス・大塚の社会福祉事業施設・ソメイヨシノ発祥地等▼鉄道面では、山手・湘南新宿・埼京・東京メトロ丸ノ内・同有楽町・同副都心・西武・東武・都電荒川の各線。その他多岐多様。総計53枚を優に超える▼さらに東アジア文化都市・電気バス・LRT。この多数の切り札を組合せて強い「役」が完成し、公に提示する！楽しい想像▼来年運行開始の電気バスが国内外の来街者に愛され、さあ満を持して登場するは、LRT回遊線。その切り札や如何に。ハートのエースか？はたまた、最強のカード…ジョーカーか？ (貴)